

かほだより



適切な時期にワクチン接種を！

牛舎内には様々な呼吸器病、消化器病の疾病病原体が存在し、導入・群飼・寒暖差等のストレスなどによって免疫力が低下している時に病原体に接触すると病気を発症します。農場全体に感染が拡大し被害が大きくなる前に、日頃から適切なワクチン接種を実施する必要があります。

また、公共牧場の中には「BVDVの持続感染牛（PI牛）でないこと」及び「牛白血病抗体が陽性か陰性かが判明していること」並びに「**放牧前にIBR5混又は6混ワクチンを接種済みであること**」等を入牧条件としている牧場があります。

（詳細は各牧場事務局までお問合せください）

以下に記載するワクチンプログラムを参考に日頃から呼吸器病、消化器病を予防しましょう！

呼吸器病疾病（IBR・PI3・RS・AD7・BVD等）のワクチンプログラム

⇒ 特に、混合ワクチンに含まれるBVD-MDの種類（生か不活化か）にご注意ください！

★ 搾乳牛及び繁殖雌牛には

基本 年1回のBVD **不活化**ワクチンの一斉接種

**妊娠牛には必ず
BVD 不活化ワクチンを！**

その他の予防目的

- PI牛が生まれてこないように
→ 種付け前1~2ヶ月前にBVD **生**ワクチン
※ワクチンによるPI牛生産の予防効果は70~80%程度
- 生まれてくる子牛を感染から予防したい
→ 分娩前1~3ヶ月前にBVD **不活化**ワクチン

**種付けした後は
BVD 不活化ワクチンを！**

**母牛から受け継いだ
移行抗体があり、
ワクチン効果が弱まるため、
2回接種が必要**

★ 繁殖候補牛には

自家育成の場合

- 子牛の時期にBVD **生**ワクチンを2回（2~3ヶ月齢と、それから1ヶ月後）
- 成牛になったら必ず年1回BVD **不活化**ワクチン

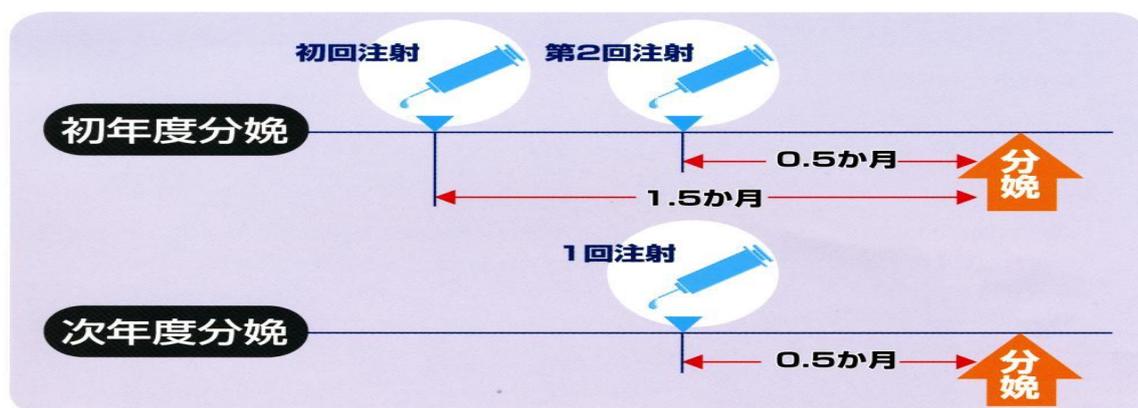
導入の場合

- 導入後すぐにBVD **不活化**ワクチン（妊娠をしていなければ生）、
その後は年1回をBVD **不活化**ワクチン

★ 肥育牛には

- BVD **生**ワクチンを2回接種（約10ヶ月齢以降の導入牛は導入後1回でOK）

消化器疾病のワクチンプログラム (牛ロタウイルス・牛コロナウイルス・大腸菌混合不活化)



ワクチンは診療獣医師の指示に従って接種しましょう

農場でワクチン接種をする際には、呼吸器系及び消化器系疾患ワクチンの接種時期をずらして、母牛のストレス軽減を図る等の処置が必要ですので、診療獣医師に相談して下さい。

ワクチンの種類と中信衛指協の注射料金^{*3}

呼吸器系疾病ワクチン	IBR	PI3	RS	AD7	Hs	BVD-MD	1頭当たり 注射料金	妊娠牛 への接種
牛5種混合生ワクチン(株微研) ^{*2} 別名：IBR 5 混生	生	生	生	生		1 型生	1,900円	×
キャトルウィン-5Hs(株微研) 別名：IBR 5 混生 ^へ	生	生	生	生	不	1 型生	2,300円	×
ポビバック 5 (共立製薬) 別名：IBR 5 混不活化	不	不	不			1,2型 ^{*1} 不	1,800円	○
キャトルウィン-6(株微研) IBR 6 混不活化	生	生	生	生		1,2型不	2,150円	○
カーフウィン 6(株微研) 別名：IBR 6 混生	生	生	生	生		1,2型生	2,150円	×
消化器系疾病ワクチン	牛ロタ(3種)		牛コロナ	大腸菌				
牛下痢5種混合不活化 (株微研)	G6P(1)、G6P(5) G10P(11)		NO. 66/H株	T-2株 K-99線毛抗原			2,300円	○

IBR：牛伝染性鼻気管炎、PI3：パラインフルエンザ3型、RS：牛RSウイルス病
AD7：牛アデノウイルス病7型、Hs：牛ヒストフィルス・ソムニ(ヘモフィルス・ソムナス)

- * 1：BVD-MDには1型と2型があり、1型に対する抗体では2型を防げない場合があります。
- * 2：株式会社 微生物化学研究所(京都微研)
- * 3：H31年10月以降は料金に変更になる可能性があります。

お問い合わせ：防疫課 三木(担当)、今村(課長)